

あいさつ コロナ禍での複合災害を考える非常に重要な契機

平田 直（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト総括 /
 首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）



主催者を代表してあいさつした防災科学技術研究所首都圏レジリエンスプロジェクト総括/首都圏レジリエンス研究推進センターセンター長の平田直氏は、今年度のデ活シンポジウムが全てオンラインで開催されてきたことについて、COVID-19 対策として採用したものである一方、“時空を超えたシンポジウム”として「従来の方法よりも遠隔地の皆さまが参加しやすく、映像や音声を残して繰り返し見ていただける」というメリットが得られたことを改めて評価。この日も450名を超える参加申し込みがあったことを報告しました。

5カ年の4年目を迎えた首都圏レジリエンスプロジェクトについては、「研究によって得られた防災技術のシーズ」と「民間・産業界・行政などが必要とする社会のニーズ」を統合することで「防災力を向上させるための新しい価値」を生み出すためのものと述べ、そのキーワードとなる「データ利活用」の重要性から、シンポジウムを年4回開催してきたことを説明しました。

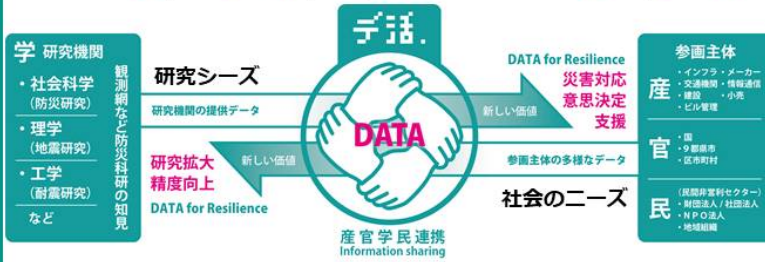
最後に、この日のテーマである「大規模集客施設における防災力の向上を考える」についての議論にあたり、2020年が、7月に発生した豪雨と、新型コロナウイルス感染症による「いわゆるコロナ禍における複合災害が発生する可能性について考える非常に重要な契機」となった1年であったことを振り返りました。

デ活の役割

1. デ活参画企業のニーズを知り、サブプロabcの連携体制により、企業のニーズに応える
2. 外部をとりまく環境を知り、プロジェクト全体として、社会のニーズに応える
3. 新たに災害・防災分野に参画しようとする企業の動向を知り、戦略構築のニーズに応える

企業・団体が保有する 観測機器・データを活用する仕組みの実現

社会的責任 (Corporate Social Responsibility) → 共通価値の創造 (Creating Shared Value)



社会貢献から「自組織の経済的価値 ↑」+ 「地域のレジリエンスの向上 ↑」へ